

ガンマ線バースト源は極超新星

国立天文台や東京大学などのグループは、宇宙最大ともいわれる爆発現象「ガンマ線バースト」の起源が規模の大きい超新星爆発だと裏付ける証拠を発見した。超巨大な恒星の最期を解明するのにつながるという。

野本憲一東大教授らが超新星の中で爆発規模が特に大きい「極超新星」を爆発後約一年たってから観測して見つけた。地球から約三億光年離れたこの星の光を国立天文台のすばる望遠鏡(米ハワイ州)で分析、ガンマ線バーストの痕跡を発見した。この極超新星については同バーストが観測されていなかったが、地球の方に光が向かっていなかったからだと分かった。

ガンマ線バーストの正体は極超新星だと考えられている。しかし、同バーストが確認されない極超新星が複数見つかっており、その正体を突き止めるうえで難点になっていた。